

PRESS RELEASE

長谷工の災害対策・環境配慮 「スマート・ウォーター・タンク」を新築マンションに導入開始 ～貯めた雨水を植栽への水やりに利用しながら、非常時の飲料水を確保～

株式会社長谷工コーポレーション（本社：東京都港区、社長：池上 一夫）と株式会社長谷工管理ホールディングス（本社：東京都港区、社長：三田部 芳信）は、マンション屋上から取り入れた雨水を貯水し、日常の植栽への水やり（以下、緑地灌水）に利用しながら、非常時の飲料水を確保する「スマート・ウォーター・タンク」（商標登録申請中）を分譲マンション（総合地所「（仮称）市原市八幡計画」、長谷工不動産「（仮称）四街道市四街道計画」）に導入開始します。

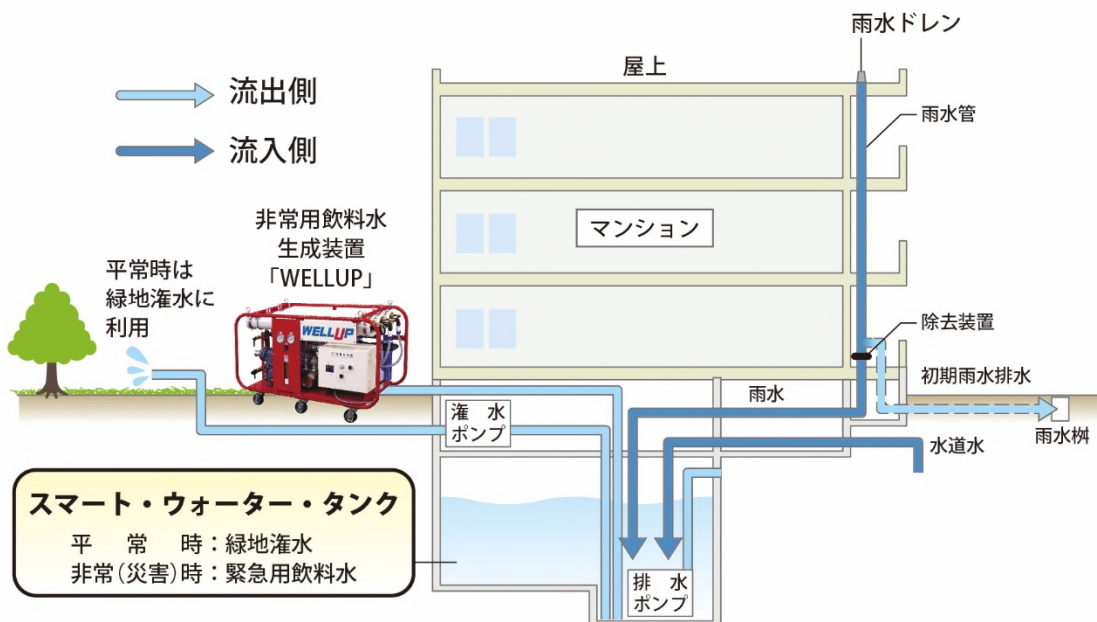
「スマート・ウォーター・タンク」は、水道水に加えて貯水した雨水を緑地灌水に有効利用することで節水・水道料金の低減を図ることができます。また、災害による断水時には非常用飲料水生成装置「WELLUP」を利用することで、居住者の飲料水6日間分（一人1日当たり約3ℓ）を供給することができます。

当社は“お客様に安全・安心で快適な住まいの場を提供する”ことを経営方針に掲げ、マンションそのものの基本性能の確保はもちろんのこと、震災・災害が発生した後の居住者の生活基盤を確保する仕組みづくりが重要と考えてきました。そうした観点から、2003年に非常用飲料水生成装置「WELLUP」を国内で初めて分譲マンションに採用し、2006年からは200戸以上の大規模マンションに基本仕様化して提案しています。

また、一昨年・昨年の台風による風害や水害を受けて、対策のために設計基準の見直しを行いました。

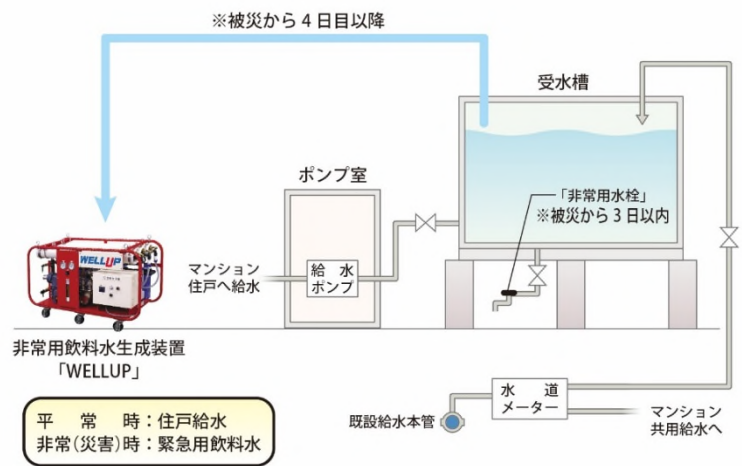
今後は、自社グループが手掛ける分譲マンションへ「スマート・ウォーター・タンク」の導入を進めるとともに、当社が設計・施工する分譲マンション等にも提案し、安全・安心で快適な住まいづくりを進めてまいります。また、災害対策や環境配慮の提案メニューの充実も図ってまいります。

【スマート・ウォーター・タンク】の概念図



・受水槽の活用（非常時の飲料水）

スマート・ウォーター・タンクに加え、受水槽が設置される案件については、受水槽に非常用水栓を設置し、受水槽内の水も利用できるようにします。受水槽の水は、水道水の塩素殺菌効果の有効性から被災から4日目以降の利用については、非常用飲料水生成装置「WELLUP」を活用して飲料水とします。



■従来との比較

| | 従来 | スマート・ウォーター・タンク |
|----------------|--------------|----------------------------|
| 日常 (植栽への灌水) | 水道水を利用 | 貯水した雨水 (不足分は水道水を補充) を利用 |
| 非常時 (飲料水) | 防火水槽や井戸の水を利用 | |
| 環境面 | △ | ○ (雨水の有効利用・節水) |
| 経済合理性 | △ | ○ (水道料金を低減) |

■長谷エグループ「4つのCSR取り組みテーマ」

スマート・ウォーター・タンクは、長谷エグループの「4つのCSR取り組みテーマ」のひとつである“住んでいたい空間”の実現に向けた「安全・安心・快適」、「暮らしの環境配慮」に寄与する取り組みです。

「4つのCSRの取り組みテーマ」は、2018年3月に制定した「CSRビジョン」及び「CSR方針」の元、長谷エグループのCSRが目指す姿として明文化したものです（住んでいたい空間・働いていたい場所・大切にしたい風景・信頼される組織風土）。

住んでいたい空間

様々なひとが安心して暮らし、成長し、それぞれのスタイルで生き生きと過ごす空間をつくっていきます。保育、教育、介護、福祉など、暮らしの質を上げていくための事業を推進していくとともに、さらなる安全・安心と環境配慮を暮らしのスタンダードにしていきます。



安全・安心・快適

住まいがどこよりも安心でき、心安らぐ場となるよう、高い品質と快適性を実現するとともに、地震への備えなど防災・防犯対策にも徹底して取り組みます。

暮らしの環境配慮

多くの人の生活の場であるマンションに由来する環境負荷をできるだけ低減し、都市全体の環境に貢献できる施設・設備の導入を積極的に進めています。

(参考) 長谷工アーベストWEBアンケート (2020年1月) 結果からの抜粋

首都圏のモニター (N=2,716) に「安心・安全に住まう」ために住宅に重要だと考えることについて聞いたところ、“台風・水害等の災害に強い建物”と回答した人が53.1%と最も多い結果となりました。また、“防災対策 (防災設備や簡易トイレ設置等)”と回答した人が26.8%と4番目に多い結果となりました。

